

産婦人科領域の感染症に対する T-3262 の投与成績

千村哲朗・森崎伸之・平山寿雄

山形大学医学部産婦人科教室*

舟 山 達

舟山病院産婦人科

新しく開発されたピリドンカルボン酸系抗菌剤の1つであるT-3262を産婦人科領域の各種感染症に投与し臨床的有用性を検討した。

投与対象は子宮内感染4例、子宮附属器炎3例、外性器感染2例、腔壁感染2例の計11例であった。

投与方法は300mg/日(1例)、450mg/日(10例)で投与期間は7~14日間であった。

臨床効果は著効1例、有効10例であり、有効率100%であった。臨床検査値の異常、自他覚的副作用の出現は認められなかった。

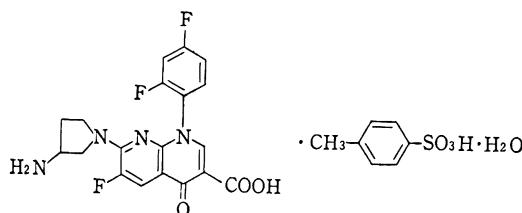
本剤は、産婦人科領域での経口投与による治療の対象となる感染症に対し、優れた有用性が期待できる。

Key words : T-3262, ピリドンカルボン酸系合成抗菌剤, 産婦人科感染症

新しいピリドンカルボン酸系抗菌物質として開発されたT-3262は、1,8-ナフチリジン環の1,7位に2,4-ジフルオロフェニル基及び3-アミノピロリジニル基を有し(Fig. 1), グラム陽性・陰性菌、嫌気性菌に対し広域抗菌スペクトラムを有する¹⁾。

本剤は、従来のピリドンカルボン酸系抗菌剤に比較し、主要グラム陽性菌、ブドウ糖非発酵グラム陰性桿菌、嫌気性菌に対し強い抗菌力を示し、これらの細菌学的特徴は産婦人科領域の各種感染症で、経口投与の対象となる疾患に対する高い有用性が期待できる。

今回、われわれは本剤の臨床効果と、安全性について検討する機会を得たので報告する。



(±)-7-(3-amino-1-pyrrolidinyl)-6-fluoro-1-(2,4-difluorophenyl)-1,4-dihydro-4-oxo-1,8-naphthyridine-3-carboxylic acid p-toluenesulfonate hydrate
 $\text{C}_{19}\text{H}_{15}\text{FN}_4\text{O}_3 \cdot \text{C}_7\text{H}_8\text{O}_3\text{S} \cdot \text{H}_2\text{O}$
MW 594.56

Fig. 1. Chemical structure of T-3262.

I. 投与対象及び方法

昭和62年1月から3月までの間に、当大学及び関連病院において、産婦人科感染症と診断した11例を対象とした。

疾患別では、子宮内感染4例、子宮附属器炎3例、外性器感染2例、腔壁感染2例である。

T-3262は1日2または3回食後経口投与した。投与量は300mg/日投与群1例(投与期間12日、総投与量3,600mg)、450mg/日投与群10例(投与期間7~14日、総投与量3,150~6,300mg)であった。

臨床効果は主として症状の推移から主治医が判定し、白血球数、血沈値、CRP値などの検査値も参考とした。細菌学的效果は、投与前後に細菌学的検索を行ない判定した。安全性は投与中および投与後の自他覚症状ならびに血液(赤血球数、血色素量、ヘマトクリット、白血球数、血小板数)、肝機能(GOT, GPT, Al-Pase)、腎機能(BUN、血清クレアチニン)などの検査値の異常の有無から検討を行なった。

II. 成 績

T-3262の投与症例の概要をTable 1に示す。

1. 臨床効果

疾患別臨床効果の検討では、子宮内感染(有効4例)、子宮附属器炎(有効3例)、外性器感染(著効1例、有効1例)、腔壁感染(有効2例)であった。全症例での

Table 1. Clinical effect of T-3262

Case no.	Name	Age	Diagnosis	Daily dose and duration	Organism		Clinical response	Clinical effect	Side effects
					Before	After			
1	M.O.	27	Infectious abortion	450 mg × 7 3,150 mg	(-) → (-)		Lower abdominal pain ↓ Tenderness ↓ CRP (±) → (-)	Good	-
2	Y.K.	32	Vulvar abscess	450 mg × 7 3,150 mg	<i>S. epidermidis</i> <i>Peptostreptococcus prevotii</i> →	(-)	Spontaneous pain ↓ Tenderness ↓ WBC ↓	Excellent	-
3	K.S.	32	Vulvitis	450 mg × 7 3,150 mg	<i>S. mitis</i> <i>Corynebacterium</i> sp. → <i>S. epidermidis</i>	(-)	Spontaneous pain ↓ Tenderness ↓ Redness ↓	Good	-
4	K.S.	51	Colpo-abscess	450 mg × 7 3,150 mg	<i>S. epidermidis</i> <i>E. faecalis</i>	→ (-)	Tenderness ↓ Redness ↓	Good	-
5	M.A.	28	Infection of colpo-hematoma	450 mg × 7 3,150 mg	<i>E. coli</i>	→ (-)	Spontaneous pain ↓ Tenderness ↓ WBC ↓ CRP (2+) → (±)	Good	-
6	T.K.	22	Salpingitis	450 mg × 14 6,300 mg	Not determined → Not determined		Lower abdominal pain ↓ Tenderness ↓	Good	-
7	R.Y.	42	Endometritis	450 mg × 7 3,150 mg	<i>S. epidermidis</i> <i>Corynebacterium</i> sp.	→ (-)	Lower abdominal pain ↓ Tenderness ↓ WBC ↓	Good	-
8	Y.S.	42	Endometritis	450 mg × 12 5,400 mg	<i>S. sanguis</i> <i>S. equinus</i> <i>Propionibacterium acnes</i>	<i>S. faecium</i> <i>S. salivarius</i> <i>S. sanguis</i> <i>Staphylococcus</i> sp.	Lower abdominal pain ↓ Tenderness ↓ WBC ↓ CRP (1+) → (-)	Good	-
9	M.S.	35	Endometritis	450 mg × 10 4,500 mg	<i>E. coli</i> <i>Bacillus</i> sp.	→ Not determined	Lower abdominal pain ↓ Tenderness ↓	Good	-
10	Y.W.	20	Salpingitis oophoritis	450 mg × 12 5,400 mg	(-) → Not determined		Lower abdominal pain ↓ Tenderness ↓ WBC ↓ CRP (1+) → (-)	Good	-
11	T.I.	44	Salpingitis	300 mg × 12 3,600 mg	Not determined → Not determined		Lower abdominal pain ↓ Tenderness ↓	Good	-

* During

有効率は 11/11 (100%) であった。

2. 細菌学的検討

投与前の細菌学的検査は 9 例に行なわれ、検出は 7 例であった。単独感染は 1 例のみで他は複合感染であった。T-3262 投与後の陰性化は 2 例 (No. 4, 7) に認められ、また投与後の検体が治癒のため採取できず細菌学的に陰性化と判定したものが 3 例 (No. 2, 3, 5) であった。検出菌の一部消失は 1 例 (No. 8) で認められた。

3. 安全性

T-3262 投与 11 例における自他覚的副作用及び臨床検査値の異常は認められなかった。

4. 症 例

今回検討した 11 例中より代表的症例 (No. 5) について

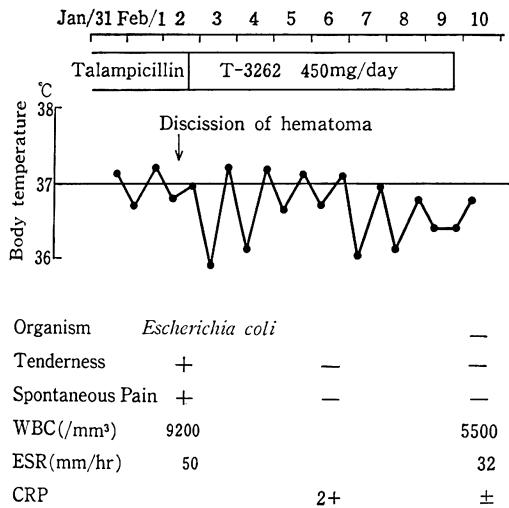


Fig. 2. Case No. 5 M. A. 28 y. o. F, Colpo-hematoma infection.

て紹介する (Fig. 2)。昭和 62 年 1 月 29 日分娩したが、産褥 5 日目に腔壁血腫が発生し、微熱が併発、同部位の感染が疑われ切開、内容物除去した。2 月 2 日より T-3262 投与開始し、1 日 450 mg、7 日間投与で治癒した症例である。T-3262 投与前に talampicillin が経口投与されていた。切開部の膿よりは *Escherichia coli* (*E. coli*) が検出された。本症例に対する臨床効果は有効と判定された。

III. 考 案

化学合成抗菌剤の感染症への歴史は、サルファ剤、ニトロフラン誘導体や PAS-INH などの抗結核菌用化学合成剤など古くからみられるが、近年、nalidixic acid (NA), pipemidic acid (PPA), sulfamethoxazole-trimethoprim 合剤などの開発導入に至った。Norfloxacin (NFLX) も近年開発され現在産婦人科領域での各種感染症への臨床効果が認められているが、T-3262 の細菌学的評価は NFLX, ofloxacin (OFLX), ciprofloxacin (CPFX) に比し主要菌種に対し優れた抗菌力が報告され、とくにメチシリソ耐性 *Staphylococcus aureus*, *Enterococcus faecalis* を含むグラム陽性菌, *E. coli*, *Klebsiella pneumoniae*, *Haemophilus influenzae* や *Bacteroides fragilis* に対し著しい抗菌力が認められている¹⁾。こうした特徴を有する本剤の有用性は、産婦人科領域での各種感染症に優れた臨床効果として期待されるが、今回 11 例の投与成績でも 100% の有効率が得られた。また臨床検査値の異常および自他覚的副作用も認められず、本剤の産婦人科領域への各種感染症に対する有用性が期待される。

文 献

- 1) 第 34 回日本化学療法学会東日本支部総会、新薬シンポジウム。T-3262, 東京, 1987

T-3262 IN OBSTETRICS AND GYNECOLOGY

TETSURO CHIMURA, NOBUYUKI MORISAKI and TOSHIO HIRAYAMA

Department of Obstetrics and Gynecology, School of Medicine,
Yamagata University
Nishinomae Zaohida, Yamagata-shi 990-23, Japan

TOHRU FUNAYAMA

Department of Obstetrics and Gynecology, Funayama Hospital

We investigated a newly developed antimicrobial agent T-3262, which is a pyridone-carboxylic derivative, for its clinical efficacy in obstetric and gynecological infections.

T-3262 was administered to 11 patients with intrauterine infection (4 patients), uterine adnexitis (3), infection of external genitalia (2) and colpo-infection (2).

The daily dose of T-3262 was 300 mg in 1 case and 450 mg in 10 cases. The duration of administration was 7-14 days.

The clinical effect was excellent in 1 case and good in 10 cases, and the efficacy rate was 100%.

Neither subjective and objective side effects nor abnormal laboratory findings were observed.

This drug is expected to be very useful against infections treated orally by drugs in obstetrics and gynecology.